

◆結びに。

今回の派遣調査で私自身、最も印象に残ったのは、原子力防災における避難訓練の取り組みである。NRCを軸に、緊急事態対応への備えが州レベル・原発立地点レベルで緻密に構築されており、しかも実践的な訓練が市民総ぐるみで、重層的かつ定期的に積み重ねられている点だ。本県に置き換えるなら、伊方原発から半径5kmのUPZ圏内ほぼすべての住民が、必ず2年に1度訓練に参加するということになる。

原発の賛否を超えて緊急事態に向き合い、安全確保に向けて真摯な努力を持続される米国市民に敬意を表するとともに、本県においても原発事故を万が一にも起こさない最大限の努力とともに、避難訓練を始めとしたあらゆる緊急事態を想定した原子力防災対策に官民挙げて取り組む必要性を、強く心に刻ませて頂いた。



今回の調査結果を今後の県政に反映できるよう、微力ながら全力を尽くしてまいります。

追伸 この度の派遣にご尽力頂いた関係各位に心から感謝申し上げます。

【10月15日（木）】

（6）えひめ丸慰霊碑及びホノルル市庁舎訪問

文責 高橋 英行

〔えひめ丸慰霊碑〕

米国派遣5日目、心配された早朝から降り出した雨も上がり、午前中はホノルル市ワイキキの北西に位置する「カカアコ・ウォーターフロント・パーク」を訪問した。その目的は、平成13年2月10日8時45分（日本時間）、愛媛県立宇和島水産高等学校に所属する漁業練習船「えひめ丸（499t）」が、ハワイ州オアフ島沖で米国海軍のロサンゼルス級攻撃型原子力潜水艦「グリーンビル」の急浮上により衝突され沈没し、乗組員35人のうち船に残された教員5人と生徒4人が死亡（重軽傷12人）する悲しい事故が発生し、亡くなられた方の霊を慰める為に、この公園内に平成14年2月9日、愛媛県により建立された「えひめ丸慰霊碑」に対し慰霊を行うもので、派遣団全員が黙祷の後、一人ずつ献花を行った。



慰霊碑は遠い日本へと続く太平洋を一望出来る、公園内で最も眺めの良い丘の上に建立され、その横には、温州みかんの木が3本植樹されており、これは平成23年2月9日、事故後10年のえひめ丸慰霊碑管理協会主催の慰霊式の際、式典終了後に祈念の為に愛媛県により植樹されたものである。

忘れる事の出来ない痛ましい事故から14年の歳月が

流れたが、同郷の御霊に心から御冥福を祈ると共に、御遺族、関係者の皆様にお見舞い申し上げます。この悲しみを乗り越える為にも、愛媛県議会議員として、ハワイ州並びにホノルル市との友好交流を促進して参りたい。

#### 〔ホノルル市庁舎〕

ホノルル市庁舎では、市長がアメリカ本土に公務出張中との事で、日系三世のROY K. AMEMIYA, JR. 副市長が対応して頂いた。

なお、市庁舎は1927年に建設され、国家史登録材に指定されており、ハワイ王国の歴史を感じる事の出来る観光名所にもなっている。

冒頭、戒能団長より、「えひめ丸」事故の発生時、ホノルル市民の皆様には被害関係者への援助に力を頂いた事に対する感謝の意と、この悲しい事故を乗り越え、愛媛県とハワイ州が、そして宇和島市とホノルル市が姉妹提携を結ぶ等、相互交流が盛んになり、また戒能団長自身が、愛媛・ハワイ交流少年野球大会の相互開催に携わっており、スポーツ面、経済、文化を始め様々な分野で交流を継続、さらに充実させ、両地域の友好がさらに深まる事を期待したいと挨拶をし、副市長からは、



さらに充実させ、両地域の友好がさらに深まる事を期待したいと挨拶をし、副市長からは、

遠い愛媛の地からホノルル市へ訪問した事に対する御礼と、これまでの友好交流をさらに促進させる事が、両地域の発展に繋がるとの挨拶。また今年8月に、姉妹都市提携先である宇和島市を訪問し、石橋宇和島市長との面談、宇和島水産高校でのえひめ丸慰霊碑への献花、そして宇和島の様々な伝統・文化に触れたとの話があった。

その後、日本のエネルギー事情を踏まえた、愛媛県議会としての伊方原発3号機再稼働の見解や、愛媛のサイクリング新文化、ホノルルマラソンへの期待を説明し、副市長からは島国特有のエネルギーコスト高や、観光産業及び人口増加に伴う土地価格の高騰、またかつての冷戦間のビキニ環礁核実験におけるマイクロネシア及びマーシャル諸島の移民受け入れによるホームレス化問題等、様々な行政課題について意見交換した。

また、ホノルル市郡都市圏人口は95万人ながら、市議会議員は4年の任期で9の行政区から計9人との事で、人口比から言ってもかなり少なく、今後機会があれば議会の仕組みを学びたいと思う。

ホノルル市と宇和島市は、「えひめ丸」事故を機に、文化、教育、経済を中心とした交流を一層推進し、日米両国間の相互理解の促進に努め、世界の恒久平和に寄与することを願い、姉妹都市として締結しており、我々愛媛県議会議員としてもこの取組みを応援したいと思う。

## (7) ハワイ州のクリーンエネルギー政策について

文責 福羅 浩一

ワシントンでの視察を終え、ハワイに入り、翌日朝早くからの忙しい一日となった。予定していたハワイ州政府への表敬訪問の中で、少し時間があつたため、ハワイ州のエネルギー管理者であるマーク・B・グリック氏から、我々視察団に対して意見交換の申し出があり、少し唐突感はあつたが、貴重な機会だということで、エネルギー事務所の職員の方々も加わり、意見交換会を開催することとなった。





グリック氏の名刺には「Administrator HAWAII STATE ENERGY OFFICE」とあり、愛媛県でいえば「公営企業管理者」のような立場だろうと解釈しながら席に着き、グリック氏の説明を拝聴した。



手渡された資料の題名は「ハワイのクリーンエネルギー変換」。日本もエネルギーの構成比率のベストミックスを構築していかなければならない中で、島として同じ地理環境にあるハワイの政策は非常に参考になるのではないかと感じた。

#### ① ハワイのエネルギー政策

ハワイのエネルギー計画や政策等については、「エネルギー資源コーディネーター」が担当し練り上げられ、その指針を実行するよう、エネルギー管理者（グリック氏）とエネルギーオフィスに委任されるようである。また、2011年には、環境問題やエネルギー確保の観点にとどまらず、経済推進力としてクリーンエネルギーを位置づけたとの事。

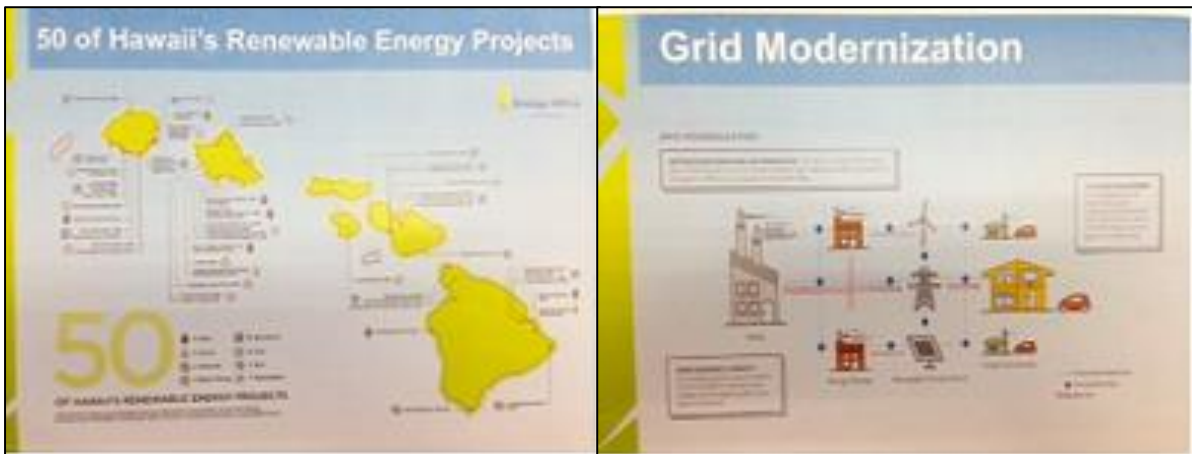


#### ② ハワイのクリーンエネルギーの取組み

ハワイは太平洋の真ん中にある島であり、本土から送電網で電力の供給を受けることはできず、輸送コストも当然高いため、電気料金は、アメリカ本土が約10セント/kwhに対し、ハワイは約30セント/kwhと約3倍との事。そのため、ハワイでは大きな二つの目標を掲げている。一つは「2045年までに電力部門での再生可能エネルギーを100%にする」ということと、もう一つは「2030年までに4300ギガワット/時を減らす」という二つの目標である。

ハワイには恵まれた自然環境があるため、これらを生かし、再生可能エネルギープロジェクトをハワイ全土50か所で行っているようである。突出しているのはやはり太陽光発電で、2014年度のアメリカにおける、一人あたりが設置した太陽光発電の多い都市トップ10では、群を抜いてホノルルが一位。その他、風力、水力、バイオ燃料や地熱もあるそうだが、技術革新を図りながら、さらに増やしていく計画のようだ。

また、各種のエネルギーを効率よく供給できるよう、送電網の近代化を図っており、この近代化によって、エネルギー提供者の連合体をつくり、無駄なエネルギーを削減していきたいとの事。



いただいた資料にもあったが、「ハワイはすごく魅力的なエネルギー解決策の実験室である。」という言葉が響いた。グリック氏からは、「日本も同じ条件にある。悲惨なフクシマの事故も経験した。我々と同様にクリーンエネルギー100%を目指してはどうか。」という提案をいただいた。



私からは、日本には世界に誇れる製造業の電力需要を守っていかねばならないことやハワイとの天候の違い等を説明し、エネルギー源のベストミックスが日本のたどるべき道だと述べさせていただいた。しかしながら、日本も再生可能エネルギーを増やしていく方向性は同じであり、今回に限らず今後もハワイのクリーンエネルギー政策を注視し、参考にしていきたいと思う。

今回、非常に有意義な視察となり、グリックハワイ州エネルギー管理者とエネルギーオフィス職員の皆様、通訳のジョー氏ほか、関係各位の皆様に心から感謝を申し上げます。

## (8) ハワイ州政府・州議会表敬訪問及び ハワイ愛媛県人会・州政府関係者との懇談会

文責 大西 誠

ハワイ州は人口136万人・面積1万6,635平方キロ「東京都の7.6倍」の言うまでも無く6つの島「オアフ島・ハワイ島・カウアイ島・ラナイ島・マウイ島・モロカイ島」を中心としたハワイ諸島からなる州である。全米50州の中で最もアジア系人口の比率が高く38.6%を占め、日系は13.6%を占めている。大変親日的で、日系の経営者・政府関係者が多い事も良く知られている通りで、今回も多く親日日系関係者・県人関係者にお世話になった。

10月14日午前7時にワシントンのホテルを出発し、サンフランシスコを経由して11時間のフライトでホノルルに19時頃到着、夕食を済ませて各自深い眠りに就いた翌15日の午前7時30分より、ホノルルでの視察研修は始まった。

[ハワイ州政府・州議会表敬訪問]

デービット・イゲ ハワイ州知事を表敬訪問し、愛媛県とハワイ州の経済や観光での振興・えひめ丸慰霊に関する意見交換を行い、来月訪問する少年野球の交流についても話が弾んだ。

近年、ハワイではポリネシア諸島からの移民が急激に増加しており、市内の多くの公園でテント生活を送っているとの事である。治安の悪化に加え、主要産業である観光への悪影響も懸念され、早急な対応が望まれるとの事であった。

また、通訳のスcott氏によると、ハワイでは柔道も盛んで市内の多くの施設で柔道教室が開催されているとの事。私が長年柔道を習い現在愛媛県柔道協会の副会長を務めている事を伝え、今後の愛媛県とハワイ州の柔道の交流にも花を咲かせた。



その後、ウィル・エスペロ ハワイ州上院議会副議長、ケン・イトウ ハワイ州下院議員の執務室に伺い州議会の仕組みやホノルル市との行政の仕組みを意見交換した。

その後、ウィル・エスペロ ハワイ州上院議会副議長、ケン・イトウ ハワイ州下院議員の執務室に伺い州議会の仕組みやホノルル市との行政の仕組みを意見交換した。

ハワイ州庁舎にある下院議員議事堂見学を始め、各種会議室や今回コーディネートを頂いたマーク アンダーソン氏(州政府関係者)の執務室にも伺い、観光と経済の振興に加えスポーツによる交流についても意見交換を行った。

〔ハワイ愛媛県人会・州政府関係者との懇談会〕

10月15日夜、ウィル エスペロ 上院副議長夫妻・ケン イトウ下院議員夫妻・ジェーン 納谷氏（古くから愛媛との交流に尽力頂いているDr納谷さんの奥様）・ロイ アメミヤ氏（愛媛県人会代表代理）・マーク アンダーソン氏（州政府関係者）・スコット氏（通訳）始め、多くの友人の方も参加頂き、懇談会を実施した。

昼間の意見交換が更に熱を帯び、経済と観光の更なる振興とえひめ丸の慰霊の継続の話が大いに盛り上がった。

また、愛媛とハワイの少年野球の交流に加え、多くの政府関係者や政治家の家族にも柔道経験者がいる事が判明し、柔道によるスポーツ交流にも話題は発展した。

経済・観光・スポーツと幅広い分野の話が各テーブルで盛り上がり、今後の愛媛県とハワイ州の更なる交流振興を約束し懇談会は熱く盛り上がったまま終了した。



## 6 おわりに

愛媛県議会海外派遣（米国）議員団長 戒能 潤之介

今回の派遣は、米国の原子力政策、防災・危機管理対策、エネルギー事情等について視察研修するとともに、ハワイ州との友好交流をさらに深める貴重な機会となりました。

ワシントンでは、国立航空宇宙博物館やアーリントン国立墓地等の視察を通じ、米国の歴史、文化及び科学技術の現状を知り、日本との関連性を改めて学びました。

また、世界でも有数のシンクタンク「戦略国際問題研究所（CSIS）」では、米国における日米安全保障の考え方や最新のエネルギー事情について貴重なお話を伺いました。

さらに、県政の重要課題の一つである原子力政策や防災・危機管理対策等について伺った海外電力調査会職員との意見交換及び米国原子力規制委員会（NRC）の訪問は、先の9月定例会において、伊方原発3号機の早期再稼働を決議した本県議会としては誠に時宜を得たものであり、原子力防災訓練の現状やエネルギーのベストミックスについての見解、原子力政策の日米比較等、県政の課題解決の糸口となり得る大変有意義な意見交換を行うことができました。

ハワイにおいては、宇和島水産高校実習船「えひめ丸」の痛ましい事故から14年が経過しました。御遺族をはじめ、関係者の皆様にとっては、いくら時間が経過しても、その悲しみが癒えることはないかと存じますが、この事故を機に、本県とハワイ州は友好を重ね、経済・文化・スポーツ等の幅広い分野で、交流が年々深まっています。

今回のハワイ訪問も、えひめ丸慰霊碑への献花から始まり、ハワイ州知事やホノルル市

副市長を表敬訪問させていただいたほか、本県との交流に多大な御貢献をいただいているハワイ愛媛県人会の方々や州政府関係者とも、和やかに、かつ率直な意見交換をする機会をいただきました。そこでは、「えひめ丸の悲しい事故のことは忘れてはならない。」という現地の方の思い、そしてこの悲しい現実を



乗り越えて、お互い未来志向の友好関係を築いていこうとする非常に前向きな思いを強く感じ、我々も微力ながらハワイの方々と本県関係者の友好の橋渡しに引き続き尽力しなければならないと、改めて思いを新たにしました。



今回の米国訪問は、強行日程の非常に限られた時間ではありましたが、視察研修を通じて得られた知識と経験は、今後の県政に活かせる非常に有意義なものであり、この経験を少しでも関係施策に反映できるよう、個々の議員活動はもとより、県議会が一丸となってより良い県政推進に向けて真摯に取り組んで参る所存です。

終わりに、今回の海外派遣に御協力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。